

## 弘前大学医学部附属病院で診療を受けられる皆様へ

本院では、下記の研究を実施しておりますのでお知らせいたします。

本研究の対象者に該当する可能性のある方で、情報を研究目的に利用されることを希望されない患者さんもしくは患者さんの代理人の方は、下記の連絡先までお申し出ください。

1. 研究課題名	術中の高クロール血症が急性腎傷害発症に与える影響について		
2. 対象患者	当院で全身麻酔を受けた非心臓手術患者様		
3. 対象となる期間	2016年 4月 1日 ~ 2018年 3月 31日		
4. 実施診療科等	麻酔科		
5. 研究責任者	氏名	斎藤淳一	所属 弘前大学医学部附属病院 集中治療部
6. 共同研究機関 (共同研究機関研究責任者)	共同研究機関はありません。		
7. 研究の意義	手術中には輸液の影響により電解質と呼ばれる血液中の成分が変化します。その一過性の電解質の変化が手術後の腎機能の悪化に関与するのかが明らかにします。輸液の影響を明らかにすることでより安全な輸液製剤を選択する手助けとなると考えています。		
8. 研究の目的	集中治療室の重症患者様や心臓手術後の患者様において電解質の変化(特に塩素イオン)は急性腎障害との関連が報告されています。しかしながら、術中の一過性の電解質異常が急性腎傷害の発症に関連しているか十分なデータは存在しません。今回、手術中の電解質(塩素イオンやナトリウムイオン)の変化と術後の腎機能の悪化との間にどのような関係があるのかが明らかにします。また術中に使用した輸液製剤と急性腎傷害発症の関連についても検討します。		
9. 研究の方法 (使用・提供する資料等および外部に提供する場合はの方法等)	麻酔記録、電子カルテから患者様の血液検査データを抽出します。該当患者様の急性腎傷害(透析の導入の有無など)の発症と背景因子、疾患名、手術名、手術時間、輸液量、輸液製剤の種類、電解質の値との関連性を検討します。新たな採血によるデータ収集等は必要ありません。		
10. 個人情報の保護	それぞれのデータは名前等の記載はせず、またデータ自体が個人の特定性が低いため、解析やデータの公表にあたっては各個人の同定は不可能であり、対象者のプライバシーは十分に擁護されると考えます。収集したデータは麻酔科学講座で保管します。該当患者様およびその御家族から当検討へ批判や拒否の意向が示された場合には該当患者様のデータを削除します。ただし、学会や論文に発表・投稿後に拒否の意向を示された場合、公表後の結果を修正することはできませんので御了承願います。		
11. 利益相反に関する状況	研究責任者、すべての共同研究者に開示すべき利益相反は存在しません。		
12. 連絡先	弘前大学大学院医学研究科麻酔科学講座		
	電話	0172-39-5113	FAX 0172-39-5112